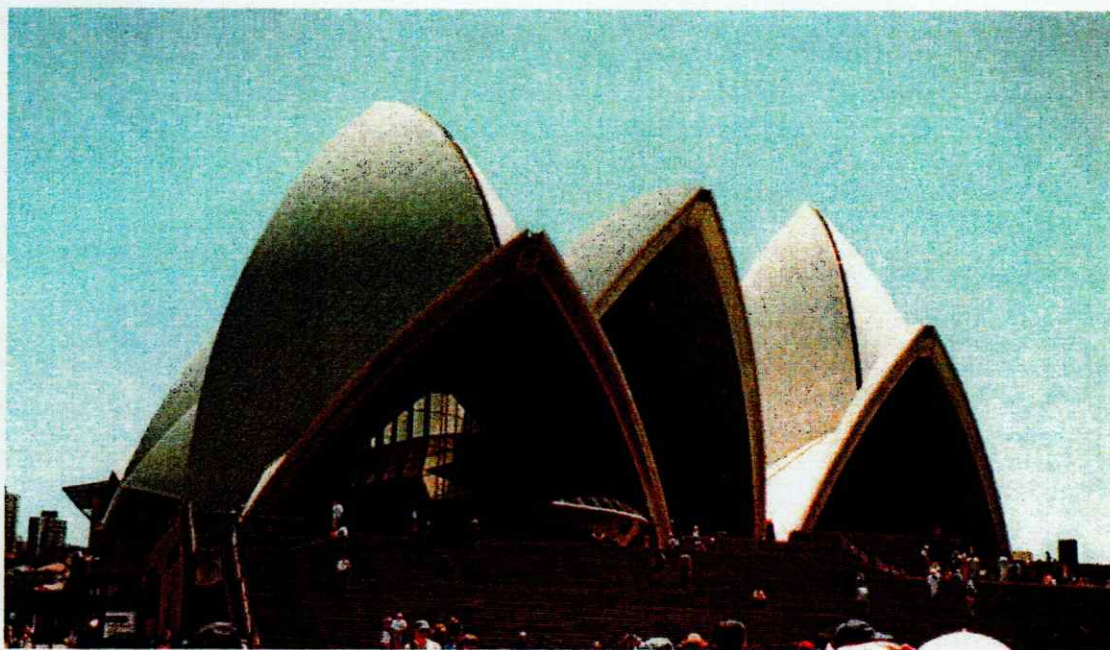
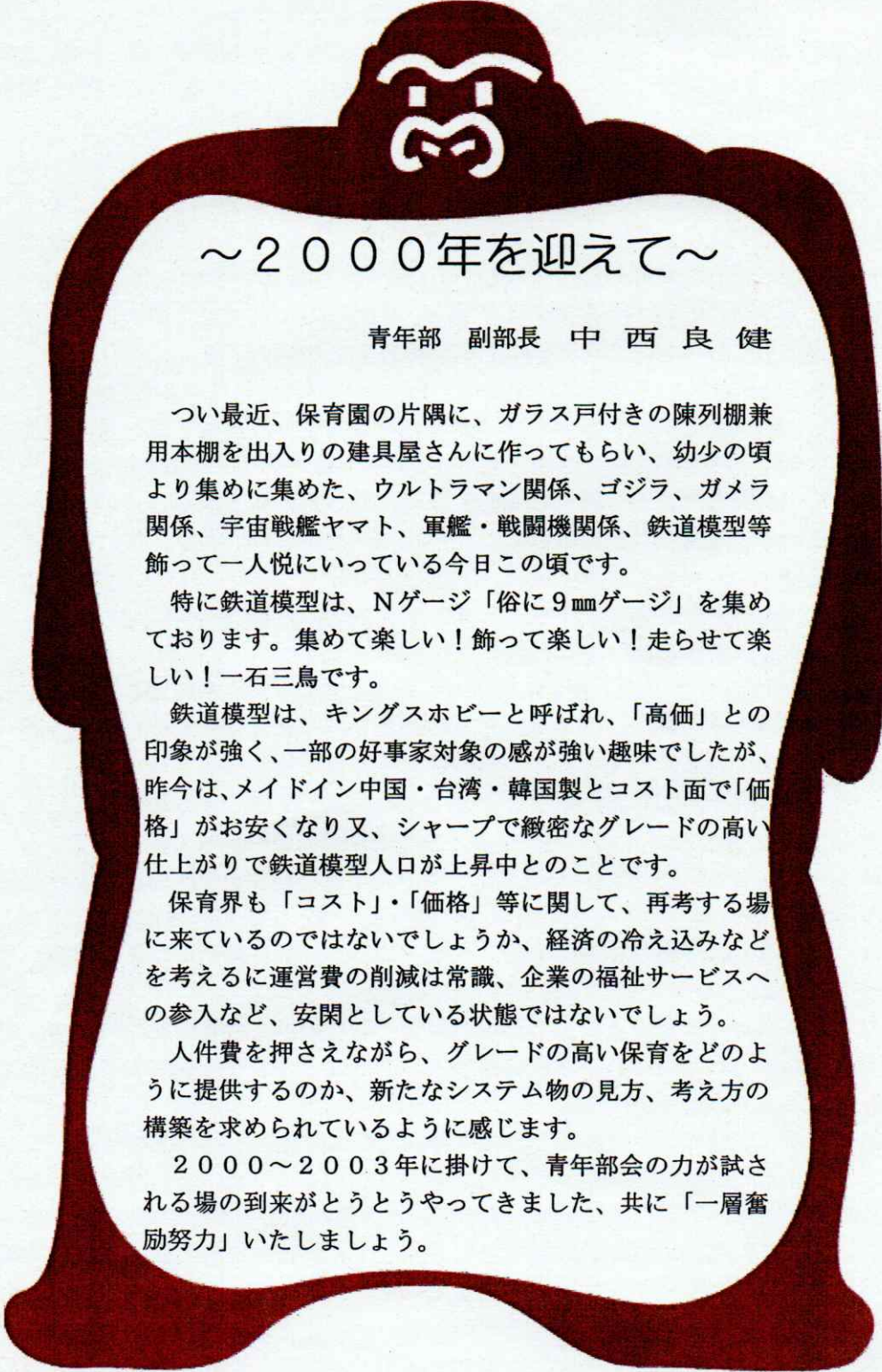


青年部通信

いしずえ  
礎 No. 4



シドニーオペラハウス



## ～2000年を迎えて～

青年部 副部長 中西良健

つい最近、保育園の片隅に、ガラス戸付きの陳列棚兼用本棚を出入りの建具屋さんに作ってもらい、幼少の頃より集めに集めた、ウルトラマン関係、ゴジラ、ガメラ関係、宇宙戦艦ヤマト、軍艦・戦闘機関係、鉄道模型等飾って一人悦にいつている今日この頃です。

特に鉄道模型は、Nゲージ「俗に9mmゲージ」を集めております。集めて楽しい！飾って楽しい！走らせて楽しい！一石三鳥です。

鉄道模型は、キングスホビーと呼ばれ、「高価」との印象が強く、一部の好事家対象の感が強い趣味でしたが、昨今は、メイドイン中国・台湾・韓国製とコスト面で「価格」がお安くなり又、シャープで緻密なグレードの高い仕上がりで鉄道模型人口が上昇中とのこと。

保育界も「コスト」・「価格」等に関して、再考する場に来ているのではないのでしょうか、経済の冷え込みなどを考えるに運営費の削減は常識、企業の福祉サービスへの参入など、安閑としている状態ではないでしょう。

人件費を押さえながら、グレードの高い保育をどのように提供するのか、新たなシステム物の見方、考え方の構築を求められているように感じます。

2000～2003年に掛けて、青年部会の力が試される場の到来がとうとうやってきました、共に「一層奮励努力」いたしましょう。

～保育の源流を訪ねて～

講師：堀川保育園 名誉園長 堀川秀雄 先生  
平磯保育園 園長 川崎長光 先生  
司会：泉ヶ丘保育園 園長 渡辺信行

渡辺（以下司会）：今日は、茨城県においての保育の草分け的存在でいらっしゃる、堀川・川崎両先生をお招きして、制度政策が乏しかった時代の苦労話をいただくことによって新しい時代の流れに対応する力を得たいと思い企画しました。

さて、茨城県内の保育の歴史からすると、昭和20年代では、県内には約20の認可施設あり、今では200を超える施設数を数えます。

その中でも、堀川先生、川崎先生いずれも、昭和20年代に認可された古い保育園ですし、認可を受ける戦前から仕事をずっとやってこられました。当然制度政策に関して今のような補助制度はほとんどない時代からやってこられた先生方ですので、そのあたりの話を聴きながら、我々はどうしたらこれからはいいのか、どうすべきなのか、また、これだけはしなければならないというのを、探していきたいと思います。

はじめに、堀川先生が最初に保育園を始まる上で何を動機に始めたのか、心掛けてきたのかをお聞きしたいのですが。

堀川先生（以下敬称略）：今日は、皆さんの若々しい顔を見まして、非常に心強く感じる次第で御座います。私は、辞めてから3年になり、今は名誉園長職ですが、若い人がよくやっていますので、よけい精神的にも伸びてしまって・・・（笑）。しかし、この道に携わって非常に嬉しいようでこの歳にしては、若く見えるのではないかと（笑）。毎日毎日が嬉しい！辛さと言う物を感じないからよけい伸びちゃっているのではないかと（笑）。ひとえに、皆さんの若い健やかな熱気があふれる皆さんに接したら、益々こちらも若くなるというもので。皆さんが期待するように、我々は言うことは何もないのですが。ただ、こうして話しをすることが喜びかと思っています。

司会：今は、保育にかける理由として、母親の就労と言うのが主な理由なのですが、昭和20年前後というのは、女性の働き手というのはどういう職種が多かったのでしょうか？

堀川：それは、ずっと後のことだと思うんですが。ただ私たちは、その当時仕事がなかったというのが川崎先生であって（笑）、私は、親父がそうだったので仕事がなかったので「満州へでもいっちゃおうかな？」と、思ったんですけどね（笑）。ところが、昔教えた子ども達が羽織袴を私に寄付してくれたり、昔の教え子が二人揃って私のところにやって来たので満州までいくことないし、父親も長く携わっていて歳も取って来ているんだからと思い、そのまま保育園の園長にたのみこんで昭和13年来て、昭和17年に園長になったのですが、それまでは、ただ遊んで自分の好きなことをやっておったんですけどね！で、川崎君と知り合ったのは、

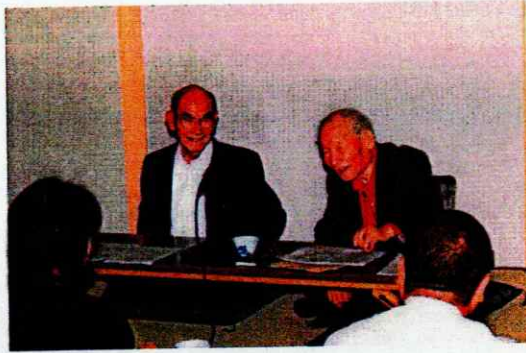
昭和13年だっけか？

川崎：14年！

堀川：ああ・・・14年で15年か！？

川崎：15年頃は、釣りに行ったり、温泉行ったりしてたのは！

堀川：それで心配して、川崎君も仕事が無く、何もやっていないのだから、どうなんだ保育の仕事は？お結構持って本人の意志があるのなら！ところが、保育園を建てるのにはお金がかかりますか



らね。その時、川崎君の父親が相談したわけですよ。堀川さんでは、結構手がけてるので・・・と言うことで、川崎君が私の所に来て、見習いをやったのですがね。その時の写真がありますがね、一生懸命やっていた写真が。あれは、いい記念だね！（笑）。それで、彼を親父さんが出すと言って、幸いにしてその時の町長さんが、川崎君の先生だったんです。

川崎：私が生まれたのが阿字ヶ浦だったから、昔は舞浜と言ってたがその小学校の校長先生だったんですよ。その先生が平磯の町長をやっていたんですよ。

堀川：それで、土地も買うことが出来、現在はまた、ようやく建て直して・・・。そういう日を私も楽しみにしてますがね。そういうわけで、力瘤入れてくれたので現在の地に保育園を建てることが出来たわけです。あの時は、一銭くらだっけ？

川崎：いや、五銭くれたよ！

堀川：おれのところには、くれなかったなあ～

司会：昭和16年12月に川崎先生が堀川先生のところで勉強なさった後、平磯の地に平磯保育園を開園しましたが、その当時というのは、寒い季節ですが、入園してくる子ども達の様子はいかがだったでしょうか？

川崎：あの頃は、非常時で、増産増産でお母さんが子どもをほっといて仕事をしていましたので、子どもにとっては、とてもかわいそうと思ってね。そういう時代だったんで、子どもにとっては、とてもかわいそうな時代でしたね。

堀川：今に比べたら話しには成らないですね。今は、豊穰の時代で豊かすぎるほど豊かで、ところが、我々の時代は貧乏人が多かったですよ。時代の違いですが、日本はこうして豊かな国になったとは考えられませんでしたよ。今は、豊かすぎる程豊かで、回復することによって、我々みんな考えなくては成らなくてはならない時代かと思うのですがね。

司会：その当時の歴史を思いだすと、日本は長い間戦争を続けて来ていますが、その間物資が不足していたようですが、女性の労働環境の厳しさはなま易しいものではなかったでしょうね。資料を見てみると、今の保育所に近い状態というのは、当時（昭和19年）時点で、全国で2,184カ所、結構あったんですね。もちろん今のような形ではなく、託児所的な子どもたち預かるだけという状態だったと思うんですが。その当時、園長の仕事というのは、まず何から始まったんでしょうか。

堀川：川崎くんが園長になったころがその傾向が一番強かったよね。

川崎：そうだよね。保育園としては、細かいところまで預かる。そうかといって保母の数も少なかったんだよね。だから、園長先生が陣頭指揮をして、朝起きたら自分から窓を開けたり、ブランコを掛けたり、子どもが来る前に門を開けたりしてましたね。

堀川：僕らの時代は、保母さんがほんとに少なくてね。あらゆる事を保母さんも一緒になってやってましたからね。その頃の保母さんは家庭的な保母さんと言われても仕方がないでしょうけど。

川崎：ほんとに家庭的だったんですよ。私が園長でも、子どものおしりを拭いたり、給食を作ったりして、堀川保育園の頃のやり方をマネをしてやってきたんだ。だから、子どものお尻を拭いてやったんだ、それも一つも汚いと思ったことがなかったですよ。だから、入ってきた保母さんはね、お尻なんざを拭くと変な顔をちゃうから、「そんなんじゃダメだよ！」っと、「母親の気持ちでやらないとダメだぞ！」っと。子どものお尻に汚いとか何とかはないんだから。

堀川：今でもね、便所掃除をちゃんとやるように、経営者が率先してやる園は命があるということ。保母さんに任せて園長がでーんとしてるのは、ダメだろうね。

川崎：私も最初は、便所掃除もするし子どものお尻を拭いたりしてましたしね。

司会：そうですか。その当時というのは、両先生方のお話じゃないですけども、何でも出来なくては成らなかったんでしょうね。

さて、自分達はどうでしょうね。事務処理は出来ても、おむつ替えはもう何年もやってないとかね。さあ～その当たりをちょっと考えなくてはなりませんね。

職員はどうでしょうか、人数的な事も含めて。

堀川：法が管理すれば管理するほど精神が失われているのが現状でしょうか。そういう世の中になってきているんですよ。制度が働く人の為にと、良くなっているようでありながら、返って精神が失われていくのが現状ではないでしょうかね。そこで、園長の心掛けとしては、率先して便所の掃除まで文句言わないでやるというのが、命があると思いますね。

司会：今、心の問題も出ました。我々の団体でも、心の話しをしますと、それは感情論だと片付けられてしまいます。しかし、本当にそれでいいのでしょうか。心の部分について、我々はもう一度考え直さなくてはならないのかと思います。

何のために自分達の仕事があるのか、心の部分については我々若手保育者は、不確かな物しか出来ないにしろ、作って行かなくては成らないのかなと思いました。

さて、話を変えますが、給食については、どのようなご意見をお持ちでしょうか？

川崎：給食というのは親のために都合がいい。子どもがお母さんのお弁当だ！と食べるんじゃないんですよ。今は、給食だからね。ですから、親子の情愛は今は欠けてますよね。給食を薦めている時代に、テレビで給食反対と親とのつながりがなくなってしまふっということを書いて反対していた先生もいました。今では、そんなこと言ってる時代じゃないですからね、親の都合でっという時代ですからね。

司会：保育園を始められて、何が一番欲しといった物はなんでしょうか？

堀川：やっぱり、子ども達を遊ばせる遊具が欲しい。遊具を買う金がない。それで苦労

したんじゃないでしょうか。我々は、親との話し合いで協力を頂き、うちだけなんじゃないでしょうかね、後援会ができてるのは。父母の会も動いてますが。親たちが園を盛り上げてくれて、父母の会と後援会があるのですよ。親たちの協力を得られるまでの信用を得ると、そういう保育園にしなくては嘘だと思えますね。

司会：なるほど。在園中に我々が子ども達に何をしたことによって、もしも子どもの心を傷つけるような事をしてしまったり、嫌な思いが多ければ、卒園してから、「保育園には二度と行くものか！」と言うことになりますね。我々の仕事というのは、答がでるのはずっと先なのかなと思います。

堀川：肝心要一番なのは、信用される、親達に信用される、そしたら、保育園自体がそこまで向上しなくっちゃ、努力しなくちゃいけないと思います。それは経営者の心のあり方だと思います。幼児をいかに育てるかという、哲学を持たないといけないと思うのですよ。園長自体がやはり子どもを育てるか！と、いう事に対する熱意があるか。その熱意の如何によりますからね。ただ、制度の上ののっかって、理想が無い園長は可哀想ではないかと、園自体も全然光を放たないのではないのでしょうか。

司会：我々には、ちょっと耳に痛い話しです。理事長なり園長がの理念が大切だということですね。ここでちょっと、話題を柔らかくしたいと思います。堀川先生は御歳94歳、川崎先生は88歳と、健康でいらっしゃいますが、健康の秘訣のようなものがありましたら、お教えいただきましたのですが。

堀川：朝起きて、お風呂入ります。そして、大きな亀の子タワシで、全身を磨きます。そして出るときに水を浴びます。結局、全身にプラスとマイナスを浴びてますからね、だから体がいつも若い血潮高らかになりますからね。

司会：亀の子タワシというのは、スポンジタワシとちがう……

堀川：茶色い毛が多いやつですよ！それで、全身をザーッと洗うんですよ。

司会：それで、先生一年中やるんですか？これから寒くなりますが……

堀川：そのままでいますと、湯冷めしますでしょ、毛穴が開きっぱなしですから、熱が逃げて風邪ひくんですよ。ですから、出るときに水を浴びると、毛穴がキュッと締まるんですよ。そうすると、熱が逃げないでポカポカ暖かいんですよ。これが私の秘訣ですかね。それと、酒を呑めば……

司会：先生方のお酒好きというのは、有名な話です。川崎先生はいかがでしょう？

川崎：堀川先生のように、私にはとても出来ない。ですが、堀川先生のように酒が好きでね。あとは、体操ですかね。毎日筋を伸ばす様に体操をしていますよ。こんな風に。ですから、神経痛にも何にもならないですね。



堀川：あと一番いいのは、私は夜寝るときに、金魚運動をするんですよ。これをやると、背骨がちゃんとしますからね。これが、一番簡単でいいんですよ。

司会：茨城の独自性を時々感じるんですが、茨城の県民気質というのはどんなもん

でしょうかね？

堀川：私もそれは、痛切に感じます。我一人を高くするという根性があり、自分で驚いて、なんと偏狭な気持ちだこと、人を認めることができないんです、人を認めないんです、自分だけ認めて。これだけは特に茨城県人は、根性が狭くて我一人を高くするんです。そうじゃないですか皆さん。とにかく、他の人がだめで、自分だけがいい気になってそれで、人の足を引っ張るんです。こういう悪い癖が茨城人にはあるんですよ。私は自分で驚いたんですよ、自分がそうだったので。

川崎：それは、潔癖性というんだよ。茨城人はそれが強いんだよ。

堀川：それだけは、茨城人には戒めなければならぬんじゃないかと思いますがね。

司会：では、当時職員の採用についてお聞きします。職員を選ぶ時はどうなさいますか？何か基準のようなものがあればお教えいただきたいのですが。

堀川：私は、絶対音感をもった子を基準に選んでいますね。我々の教育に於いて一番大事なのは、絶対音感を持たせる、それには乳幼児の時ならできるのです。小さいうちから絶対音感を与えられる喜びがそこにあることが大事なんですよ。喜びが無くてやっているのは、寂しいことですよね。

司会：川崎先生は、職員を選ぶ時には、これが大事だなと思うことは。

川崎：採用するときは、面接をしますね。

司会：制度政策が十分じゃなかった時代に行政に対して保育園としては、どんなことを求めてきたんでしょうか？

堀川：制度が細かくなればなるほど、子どもにとっては幸せじゃないと思うのです。

司会：それでは、今日は両先生方の貴重お話をありがとうございました。



参加者全員と記念写真

茨城県民間保育協議会主催

# オーストラリア研修旅行特集

【平成12年2月7日～2月12日】



シドニー施設 INNER CITY MONTESSORI SCHOOLに於いて

居室風景 ▶



ディレクターと生徒  
▼



担任は、大学卒業後専門コースを受けた保育士  
(ディレクターと言うそうです)  
短大卒は、アシスタントと言うそうです。



研修旅行中に結婚式？（嘘）

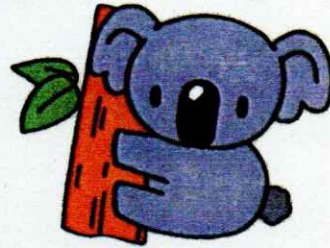
浅野さん（TC）のはからいで、誕生日のお祝い！

中西良健先生（2/6）と白根淳子先生（2/7）

おめでとうございます。



で、どうして、川崎先生が真ん中に！！（^-;）



続いて、木の美国際幼稚園（KONOMI KINDERGARTEN）視察



園庭に紫外線よけのテントが義務づけられているそうです。

また、細かいところまで、国の基準があるそうです。

例えば、朝10時から午後3時までは、戸外活動を禁止されているそうです。

（皮膚ガン予防対策）



◀ シドニーの監査基準についてを説明中  
監査結果で園の運営に影響されるそうです。



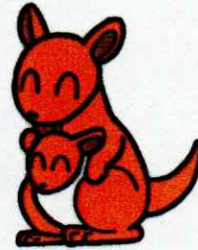
園長先生に参加者から質問責めの図 ▶



ブリスベン施設  
ST. JOHN CHILD CARE CENTER

一番身近な保育園らしい園でした  
外観がとても可愛らしく夢がちりば  
められた園でした。

園長先生にブリスベンとシドニーの基準の  
違いについて説明してもらいました。



～ オーストラリア海外視察研修に参加して ～

青年部 研修委員長 細田峰彰

去る、2月7日～12日、オーストラリア海外研修に参加し、3施設を視察して  
参りました。

子ども達の自主性と自立性を重んじたモンテッソーリ教育を実践しているインナ  
ーシティモンテッソーリスクール、日本人の経営で、グローバルな視点から日本  
とオーストラリアの異文化混合保育を実践している木の实キンダーガーデンインタ  
ーナショナル、0歳から6歳までの76名を定員とし、開園時間も午前6時から午  
後6時までと、具体的な保育内容は異なるものの日本の保育所運営形態に似たベノ  
ワチルドレンズセンター、それぞれ特色があり、とても勉強になりました。また、  
3施設に共通し、とても感心させられたことは、子ども達一人一人の安全を厳しく  
管理している面でした。

この視察研修を通して、多くの方々と交流が持て親睦も深まり、私にとって大変  
意義深い研修となりました。

## ぬきうち！保育園ほうもん in ひので保育園

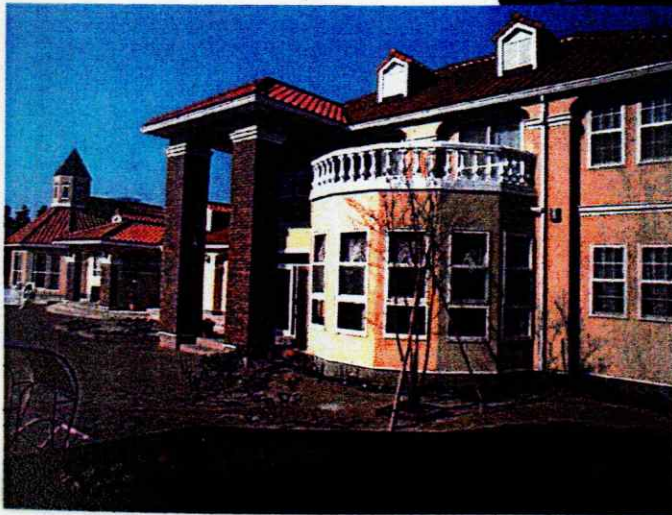


### 園舎全景と園長先生

またまた、広報委員会で園におじゃましました。井上先生お忙しいなか御協力頂きありがとうございました。

### 西側から一枚

ペンション風なのがビックリ  
外観から子供達に夢を与えてるよ  
うでとてもステキでした。



### 東側から一枚



開放感のある  
子育て支援センター

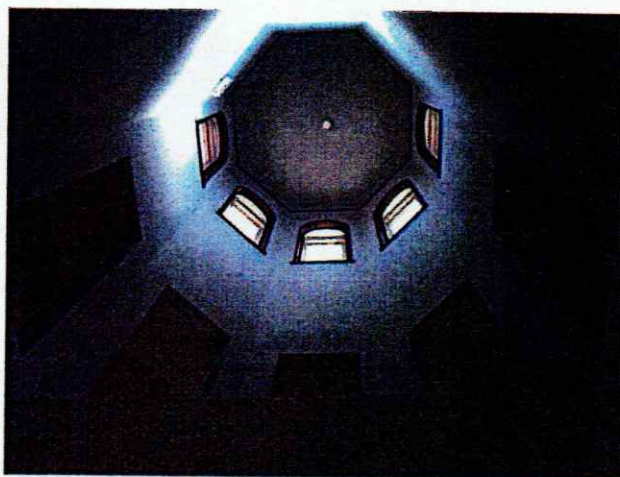


広々とした居室



明るく暖かい乳児室

**乳児室の天井**  
大工さんの配慮で作られた、  
とてもすてきな明かり取りで  
した。



～ 編集後記 ～

当初、礎No.4は、2月中旬発行予定でしたが、諸事情により4月下旬になってしまったことをお詫びいたします。

さて、礎No.4では、オーストラリア視察研修旅行の特集を組んでみました。私自身参加させていただき貴重な体験をさせていただきました。中でもオーストラリアの広大さ、遅しさ、人権にたいするシビアな考え方、それに相反して、人なつっこい人々。又、オーストラリア時間というのんびりした風土、驚かされることばかりでした。特に、日本の4倍～5倍という紫外線の量には、痛い思いをしました。

(数名の先生を含めて)日本では、3時間程度の日光浴では、皮が剥けたりしないのですが、10数年ぶりに日焼けして皮が向けました。これにはビックリしましたが.....

その他、国民の4人に1人が何らかのボランティア活動に参加し、率先して自分たちの国に役立とう、手助けをしようとしていたり、所得水準によって生活地区が決まっていたりと驚きの研修旅行でした。

今回参加させていただき、思わず永住しようかと考えたくらい気候は良かったです。

私個人的なことですが、今結婚式の準備やらなにやらで何かと忙しくて大変困っています。誰か助けて～!と叫びたくなる時もありますが、なんとかなるでしょうという、お気楽な性格が功を奏してなんとかなっているしだいでして。地道に仕事をすれば苦勞はしないんだろうと思うのですが.....ハハハ



茨城県民間保育協議会  
青年部広報委員会 発